

9月彼岸出荷コギクは電照で需要期に出荷でき、品質が向上する(現地実証)

[要約]

現地においてコギク 9月彼岸作型で電照処理を行うと、需要期に出荷できる。現地実証結果から試算すると、需要期出荷できるため「美人草」、「あずさ」、「しずか」で増収となる。加えて、切り花の等階級が向上し商品性が高まる。

茨城県農業総合センター園芸研究所	成果 区分	技術情報
------------------	----------	------

1. 背景・ねらい

温暖化に伴う気象の年次変動により、露地コギクの開花が不安定になり、需要期安定出荷が難しくなりつつある。9月彼岸出荷作型では電照を行うと開花の年次変動が少なく、安定して出荷が可能であることを明らかにしたが、生産現場での効果の実証が必要である。そこで、9月彼岸出荷作型において生産現場での電照処理が開花日、切り花品質に与える影響を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 生産現場において電照処理により、3品種全てで彼岸前10日以内に出荷でき、出荷期間も短縮される(図1、2)。彼岸10日前は大田市場のセリ中値が40円以上で推移しており、単価の高い彼岸需要期である。
- 2) 「しずか」、「美人草」において、試験で得られた出荷割合と日別単価を用いて、10aあたりの収益を試算すると、無電照に比べて「しずか」では約107万円、「美人草」では約41万円の増収となる(表1)。3) 電照処理により3品種全てで2Lの割合が多くなり、切り花階級(上から2L、L、Mの3段階で、草丈、花の付き方、茎の太さなどの切り花のボリューム)が向上する(表2)。
- 4) 「しずか」では、電照処理により切り花等級(上から秀、優、良の3段階で、草姿、病虫害の程度を含めた切り花の品質)の秀品割合が高くなり、切り花品質が向上する(表2)。「美人草」、「あずさ」(データ略)では電照処理により、良が減少し優が増加したが、病虫害の発生により秀が減少した(表2)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は茨城県南地域での結果であり、気象条件が異なる地域では、消灯日を花芽の分化等を目安に調整する必要がある。
- 2) 電照処理によって病虫害の発生が増加することはない。

4. 具体的データ

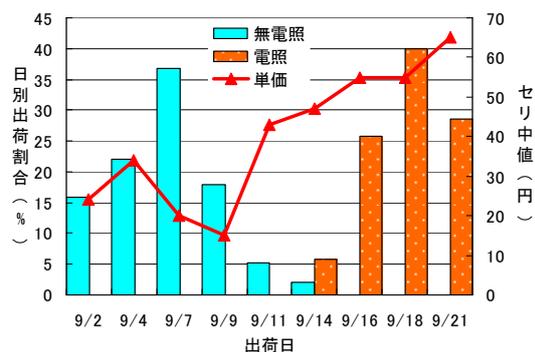


図1 電照が出荷日におよぼす影響 (しずか)

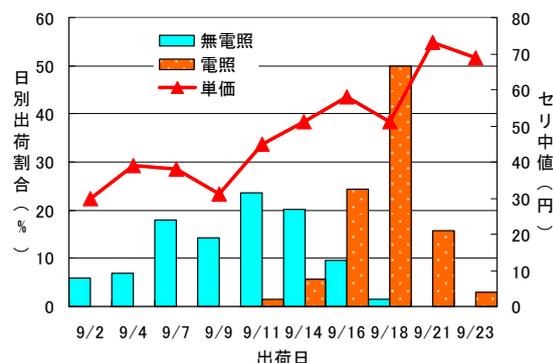


図2 電照が出荷日におよぼす影響 (美人草)

耕種概要：株間 10 cm、条間 30cm の白黒マルチ 2 条植、3 本仕立て 施肥：生産者慣行
 規模：約 25a 定植日：6/1 摘心日：6/12
 電照処理方法：約 10 m²あたりに白熱電球 (75w) 1 球を地表から 1.5m の高さに設置し、暗期中断 5 時間 (22:00~3:00 電照) で行った。
 電照開始日：6/17 電照終了日：「美人草」7/26、「あずさ」7/29、「しずか」8/3

表1 10aあたりの電照コストと収益の試算

	しずか	美人草
電照区売上 (A)	2,009,000 円	1,980,500 円
電照施設費 (B) ¹⁾	28,680 円	28,680 円
電気料金 (C) ²⁾	40,475 円	35,566 円
電照区収益 (A-B-C)	1,939,845 円	1,916,254 円
無電照区収益 (D)	861,368 円	1,503,533 円
電照による増収 (A-B-C-D)	1,078,477 円	412,721 円

10aあたり 35000 本、図1、2の単価、出荷割合で試算
 1)8 月旧盆出荷作型の施設移設なら 0 円
 2)おトクなナイト 10 で試算

表2 電照が等階級割合に与える影響

		2L	L	M	秀	優	良
しずか	電照	66%	34%	0%	89%	9%	2%
	無電照	53%	33%	14%	57%	40%	3%
美人草	電照	64%	34%	2%	0%	97%	3%
	無電照	46%	42%	12%	19%	65%	16%

注：階級は 2L 草丈 80cm、L 草丈 70cm、M 草丈 60cm

ただし、花つき、茎の太さなどは出荷農協による
 等級は以下の項目に全て当てはまらないもの 秀
 1つ当てはまるもの 優
 2つ当てはまるもの 良

項目 軽度の曲がり・軽度の病害虫・頂点咲きではない

5. 試験研究課題名・試験期間・担当研究室

電照施設利用による夏秋ギクの安定出荷技術の開発・平成 21 年度・花き研究室